

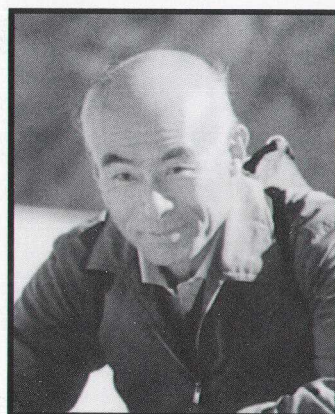
会津 晃先生を偲んで

昨年12月1日に会津 晃先生が亡くなられた。先の4月には武谷先生が亡くなられたので、平成12年は私にとって相次いで二人の指導者を失う年になった。会津先生の告別式は12月4日、自宅近くの常念寺栗平会館で、宗教色もなく質素に執り行われ、まさに、先生を送るにふさわしい告別式であった。

立教大学で会津先生の授業を最初に受けたのは4年生の時なので、それまでほとんど話す機会はなかった。ただ、理学部図書室ではよく出会っていたが、その時は、風采のあがらない格好をした人という印象が強かったので、図書の事務職員に間違えてしまった。これが会津先生の第一印象である。

4年の時の授業は物性論であった。今も残っているノートを開いて見ると、そのまま本にできそうなほど整然とした内容である。会津先生をよく知っている者にとっては先生の悪筆は有名であるが、黒板の字を写したノートからは、学生にとってわかりづらかったという印象はうかがえない。必要な時はきちっとしている先生の面影を偲ぶことができる。

私が大学院に入った当初は素粒子関係の研究に興味があったが、だんだん宇宙の方に移っていき、修士論文は局所銀河団で予想される高エネルギー粒子の振舞いを中心にしたもので、会津先生が指導教員であった。博士課程からは、武谷先生の勧めもあり、クエーサーや電波銀河に代表される銀河中心核の活動性に研究のテーマが移っていき、会津先生の指導のもとに共同研究の機会が多くなった。会津先生はもともと素粒子論の研究が中心であったが、その後、武谷先生を中心とした宇宙線や電波天文学分野の研究者による「銀河の進化と宇宙線の起源」の研究グループの一員として活躍された。その中で私は、会津先生の補助的な仕事を引き受けていた。1971年の「科学」の共著「準



星の理論—銀河の爆発として—」は会津先生との共同研究の成果の一部を紹介したものである。先生の関心は幅が広く、「宇宙における水素分子の形成」や「X線天体の放射メカニズム」等の理論的な研究の他に、後年になってからは観測に加わったり、観測データを扱うことにも意欲を示された。

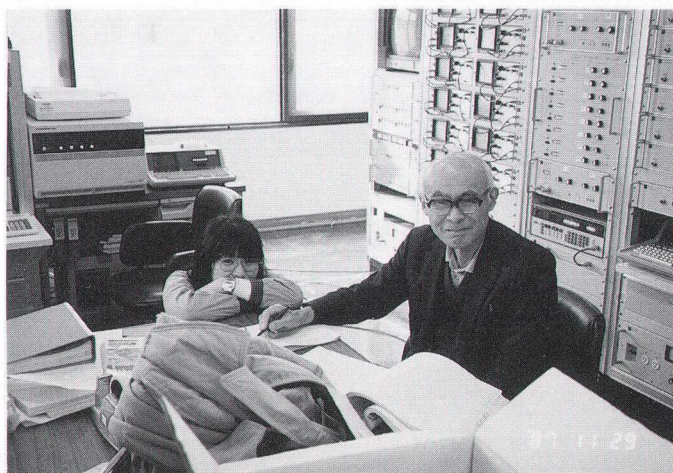
先生は指導するというより、問題があれば一緒に考えるというタイプであった。従って指導を受けたという印象では武谷先生の方が強かった。会津先生と一緒に武谷先生と議論する機会も多かったが、武谷先生の前では二人とも同じ立場で、会津先生はけっして指導者ぶるような振る舞いはされなかった。

私が東京天文台に移ってから共同研究も疎遠になっていったが、野辺山の観測データが出始める頃になると、井上 允君や加藤龍司君に会津先生も加わって共同研究を行うようになった。1987年にNatureに掲載された、大フアラデー回転を示す銀河系電波源の存在を初めて指摘した論文もその一つである。先生は、必要だと思つとプログラムを学ばれ、データ解析を進められた。計算機の得意な加藤君がいたので彼にまかせたらとも言つたが、自分でやらないと気がすまないのか、やめられ

ることはなかった。

先生は学問の邪魔になることは極力避けておられ、役職につくことを嫌われたようである。その少ない一つに東京天文台電波望遠鏡運営協議会(1979～1982)や同共同利用委員会(1982～1984)があり、天文台外にあって、野辺山宇宙電波の立ち上げに貢献された。先生は研究面でも、自分を前面に出すタイプでもなく、一歩引いたところで、こつこつ研究をされていたという印象が強い。数少ない趣味の一つは山歩きで健脚の持ち主でもあった。海外に行かれた際も、近くの丘をやや前かがみになってすたすたと歩いておられたのが印象的だったと聞いている。

先生は体調をくずされた後も、調子の良い時は天文台の懇話会によく出席され、図書室で本や雑誌に目をとおすことを楽しみにされていた。会議等で国立天文台に行ったとき、図書室でよくお会いし話しをすることもあったが、その後は、病の進行もあつたり私の方も学部長等の研究以外に多忙な仕事が重なり、気にしながらもほとんどお会いする機会がなくなった。



立教大学の理学部図書室で最初に出会い、国立天文台の図書室が最後というのも偶然ではないのかもしれない。先生ほど、学問を愛された方は少ないのではなかろうか。恐らくこうした追悼文を書くこと自体もあまり喜ばれないのではないかと思ひながら筆を置くことにする。謹んでご冥福を祈りたい。

田原博人(宇都宮大学教育学部)

故 会津 晃(あいづ こう)氏

1922年生まれ、1950年東京帝国大学理学部大学院卒業。1951年立教大学理学部助教授に就任、1964年同教授、1987年定年退職。この間、物理学科長、東京天文台大型電波望遠鏡運営協議委員、同共同利用委員を歴任。2000年12月1日肺炎のため逝去。